

明治学院大学・大学院

<p>事業の概要</p>	<p>大学院・大学における教育・研究事業 (メインキャンパス：東京都港区白金台 横浜キャンパス：横浜市戸塚区上倉田町)</p>
<p>主な事業の目的と計画</p>	<p>1. 法科大学院の開設 【目的】豊かな人間性と幅広い見識を備えた創造的な法曹の育成を通して、広く社会に貢献することを目指して開設する。 【計画】2004年4月には入学定員80名の新入生を受け入れる。</p> <p>2. 心理学科から心理学部への拡充 【目的】文学部から独立して、心理学部を設立する。その目的は、従来の文科系・理科系の枠にとらわれない独自の学問を目指し、より充実したカリキュラムで、今まで以上にその可能性を広げる。 【計画】2004年4月に心理学部を設立し、入学定員200名を受け入れる。</p> <p>3. 「他者への貢献 (Do for Others)」を理念とする教育・研究の充実 【目的】人間が愛しみ合い、文化と生活を向上させるために必要な学術知識と教養を教授し、他者に貢献できる、優れた人材を世に送り出すことに教育の重点を置いていく。 【計画】教養教育センターによる能力別語学の少人数クラスの設置 (英語クラス25名、その他の語学クラス20~35名) 国際交流の充実 学生によるボランティア活動 キャリアサポート体制の強化 高大連携の充実</p> <p>4. 教育研究のためのITシステムの開発と整備 【目的】教育研究条件の中で、特に教育・研究の高度情報化への対応として、IT(情報技術)への積極的取り組みを行う。 【計画】具体的な取り組み項目 (1) 基幹LANとサーバー再構築による、教育研究体制面における情報技術の強化 (2) 学生向けポータルサイトの構築による、学生サービス一層の向上に向けた準備</p> <p>5. 大学施設・環境の整備 【目的】教育研究水準を維持・向上するための教育施設・環境の整備を行う。 【計画】具体的な取り組み項目 (1) マルチメディア教室の拡充 (2) 法科大学院施設・設備の整備 (3) 不動産等固定資産の有効活用</p> <p>6. 大学「ブランディングプロジェクト」の立ち上げ 【目的】アイデンティティの形成という観点から創設者はヘボンであり、教育理念はヘボンの日本社会に対する貢献に由来すること。その理念を実現するための教育システムを明治学院大学はいま充実しなければならないこと。この課題を実現して生まれ変わろうとしている明治学院大学の決意を視覚的に表現する。 【計画】アートディレクターを起用し、ロゴ(タイプ)作成、スクールカラー選定、事務系ステーションナリー等の刷新整備を行う。</p>

事業計画の進捗状況

1. 法科大学院の開設

- 2004年度志願者数 1,329名 入学者数 73名(内訳 2年制 18名 3年制 55名)
「2004年度法科大学院等専門職大学院支援プログラム」に本学プロジェクトが選定された。
(1) 実践的教育推進プログラムにおいて「遠隔授業システムとITを活用した実務教育」(単独)
(2) 教育高度化推進プログラムにおいて「公設法律事務所を活用した臨床法学教育」(國學院大學
獨協大学 東海大学との共同)

2. 心理学科から心理学部への拡充

1年生から4年生までの体系的教育の実施、「心理臨床センター」での実習などを通しての「社会とのかかわりを重視した実践的な心理学」を学ばせるため、2005年4月から全学年が白金キャンパスで履修できるよう準備を完了した。

3. 「他者への貢献(Do for Others)」を理念とする教育・研究の充実

(1) 国際交流の実績

海外協定校は、世界12カ国18校。交流人数は、私立大学の中でもトップクラスに位置している。

(人)

	2002年度	2003年度	2004年度
長期留学派遣者	40	36	41
短期留学派遣者	97	79	142
協定校からの留学生	50	71	81
正規留学生	31	33	46
短期留学生	29	29	28

(2) ボランティア活動の充実

A. 文部科学省の2003年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、「大学教育における社会参画体験の取込みと実践」というテーマで選定され、2004年度は以下の通りその実践に取り組んだ。
継続プロジェクト

第4回「ソニーマーケティング・学生ボランティアファンド」の継続

第3回「地域学生わくわく交流祭」と第4回「松下電器CCカレッジ」の継続

ボランティア情報システムの開発

ボランティア情報の検索・登録のWeb・システムを2004年度に開発し、新年度から、学生の登録を自動化することができるようになった。

ボランティアセンター開設5周年記念講演会

姜 尚中東大教授を迎えて「国家と民族を超えて - 新たな公共圏へ - 」というテーマで講演会を開催した。

新潟災害支援ボランティア活動とスマトラ沖地震災害支援ボランティア活動の準備

新潟中越地震の支援ボランティア活動を実施した。また、スマトラ沖地震の支援ボランティアのプログラムを2005年度に実施するため、2005年3月にタイのタマサート大学のスタッフと現地で打合せを行った。

B. 経済学科、経営学科、社会福祉学科、国際学科、政治学科の正規授業の中で、社会参画を柱とする科目も設けている。共通科目で「総合科目・ボランティアと市民社会」という講義形式もあり、2004年度受講者は春学期152名秋学期147名となっている。

C. 学生ボランティア系のサークル、「施設社会研究会」「人形劇団ZOO」など、多くのサークルに学生が積極的に参加している。

(3) キャリアサポート体制の強化

2004年4月に、「就職部」を「キャリアセンター」に改組・強化した。特に 学生に早い段階からの就職に関する意識付け、キャリアセンター職員によるきめ細かい学生に対する指導を行った。また、求人数も増加した。

	2002 年度	2003 年度	2004 年度
求人件数	5,702 件	5,592 件	6,433 件

(4) 高大連携の実績

田園調布高校の生徒を対象に、法律学科と政治学科が犯罪論(5名)および都市論と政治政策論(2名)の講座を開設した。

明治学院高校生を対象に、経済学科がアメリカ経済論・の講座(12名)を開設した。また、フランス文学科は明治学院高校生を対象にフランス語講座の出張授業を行った。

4. 教育研究のための IT システムの開発と整備

(1) 信頼性・セキュリティーおよびサービスの向上を目的とした基幹 LAN およびサーバー再構築を行い、教育研究のサポート体制の強化を図った。

(2) 学生向けポータルサイトの整備を行い、学生サービスにおけるイノベーションとして、2005 年度からの運用が可能となった。

(3) Web 履修登録の必須化を準備し、2005 年度からの本格的な実施が可能となった。

5. 大学施設・環境の整備

(1) マルチメディア教室として、白金 9 教室と横浜 16 教室を整備した。

(2) 法科大学院の教室、資料室等を追加整備した。

(3) 白金キャンパスの近隣に、教育研究用施設のための用地(904㎡)を取得した。

(4) 研修施設(セベレンス館)を売却する一方では、研修用施設確保のため「ラフォーレ」との契約を行った。

6. 大学「ブランディングプロジェクト」の立ち上げ

アートディレクター佐藤可土和氏を起用し、第 1 段階として新しいブランドロゴとスクールカラーがデザインされ、2005 年度から各種事務系ステーションナリーに使用開始する。

また大学案内や Web のデザイン化や監修も開始した。